

令和 5 年 5 月 30 日現在

機関番号：32680

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2022

課題番号：18K12855

研究課題名（和文）定量的アプローチを用いた経営学の「知の構造」研究

研究課題名（英文）Towards an understanding of management studies using bibliometric analysis.

研究代表者

高橋 大樹（Takahashi, Taiki）

武蔵野大学・経営学部・准教授

研究者番号：50780946

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 1,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、計量書誌学的なアプローチを用いた、新たな経営学研究の手法を探ることにある。本研究の結果、現在経営学分野において、定量的な分析アプローチを用いて行われている研究には大きく分けて4つのパターンが存在することが明らかとなった。具体的には、分析目的が知の構造の探究でありかつ分析対象文献が学術論文のみの研究群、学術論文以外の文献も研究対象としつつ特定の分野の知の構造を探究しようとする研究群、知の構造の探究以外を研究目的として学術論文以外の文献も扱う研究群、学術論文を研究対象として用いながらも、特定の分野の知の構造の探究を主目的としない研究群である。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究の学術的意義は、近年急速に発展しつつある計量書誌学的なアプローチを用いた経営学研究の現状を簡潔に示し、今後の研究の発展可能性を示したという点にある。計量書誌学的なアプローチを用いた研究は、各研究分野の発展経路を「知の構造」という形で明らかにできるという点で、既存の先行研究レビューの手法を大きく発展させるものであり、本研究からはこれまでどのような有力な先行研究が存在してきたのかを簡潔に把握することができる。また、「知の構造」を明らかにするという目的以外にも経営学の分野で計量書誌学的アプローチを用いる余地は多く残されており、その点についても本研究から様々な示唆を得ることができる。

研究成果の概要（英文）：In this project, we reviewed and mapped bibliometric research in management studies. Bibliometric analysis has rapidly developed in this decade. As of August 2021, there are over 290 academic articles in Web of Science Core Collection Database. These academic articles could be categorized according to research purpose and data (what type of text data be analyzed). The research purpose of the majority is understanding intellectual structures in a specific research area. And most of this research analyzed academic articles data. On the other hand, we could see developing of the minority approach, their research purpose is not drawing intellectual structure and they do not use academic article data. For example, research using newspaper article or advertisement for a job is included in the minority. This new bibliometric approach would be an academic frontier in management studies.

研究分野：経営学

キーワード：経営学 計量書誌学

1. 研究開始当初の背景

本研究が開始された平成 30 年(2018 年)において、論文や書籍の引用データを用いた定量的なアプローチを用いたレビュー(システムティックレビュー)の研究については世界的に見てもまだ数が多くなく、まさに萌芽的な研究分野であった。その理由としては、学術論文等の書誌情報が網羅的に整理されたデータベースが当時は未整備であり、計量書誌学的なアプローチを用いて定量的なレビュー研究を行うためには、研究者自身が手作業で書誌情報の整理を行わなければならない、分析に必要なデータベースの整備に膨大なコストがかかっていたという点があげられる。

しかしながら、少数の先行する研究からは、定量的なアプローチを用いたレビュー研究が、特定の研究分野の「知の構造(intellectual structure)」を明らかにする上で極めて重要な役割を果たすことが示唆されてきた。高橋・積田・渡部(2016)および高橋(2018)において、定量的なアプローチを用いた探索的な研究を自ら行ってきたわれわれは、今後の経営学の学術的な発展に計量書誌学的な研究アプローチが果たす可能性を強く感じていた。

《参考文献》

高橋大樹・積田淳史・渡部博志(2017)「経営学のヒストリカル・レビューに向けて - 引用分析およびテキスト分析 - 」『武蔵野大学政治経済研究所紀要』第 14 号, 97-120 頁。

高橋大樹(2018)「定量的レビューアプローチを用いたリサーチストリームの探索的分析」『武蔵野大学政治経済研究所紀要』第 16 号, 275-316 頁。

2. 研究の目的

以上の背景から、本研究では研究開始年度である 2018 年度以降急速に発展してきた、経営学分野における定量的なアプローチを用いたレビュー研究および計量書誌学的な研究の全体像を把握し、これまで実現しえなかった網羅的な学説史研究を展開する手法および、新しい経営学の研究手法を探求することを研究目的として設定した。

3. 研究の方法

研究の手法としては、以下の 2 つの手法を用いた。

第 1 に、学術研究における世界最大級データベースである Web of Science Core Collection に所蔵されている経営学分野の計量書誌学的アプローチを用いた研究の網羅的なレビューを行い、既存の先行研究を分類・整理を行った。研究開始当初は計量書誌学的アプローチを用いた経営学研究の数はまだそれほど多くはなかったが、新型コロナウイルス感染症の拡大によって研究活動の中断を余儀なくされた期間に学術研究データベースの整備が進み、この種の研究数が急速に増えたため、それらの全体的な傾向を整理する網羅的レビュー研究の意義が高まったと判断し、この研究手法を採用した。

第 2 に、上記の網羅的レビューの結果として、知の構造の探究以外を研究目的として学術論文以外の文献も扱う研究群に今後の発展可能性があることが示唆されたため、この研究群に分類されるような探索的な実証研究も行った。具体的な研究手法としては、特定のキーワードを含む企業のプレスリリースの分析を行い、特定の社会的トレンドに関する取り組みが日本の企業群でどのように広がっていったのかを明らかにした。

4. 研究成果

本研究の主な研究成果は 2 つある。

第 1 の研究成果は、経営学分野の計量書誌学的アプローチを用いた研究の網羅的なレビュー論文である(高橋大樹(2021)「計量書誌学的アプローチを用いたマネジメント研究の現状」『武蔵野大学経営研究所紀要』第 4 号, 53-113 頁)。Web of Science のマネジメント領域に分類される学術論文の中で、定量的アプローチを用いた研究群を示す最も特徴的なキーワードの一つである「bibliometrics」を含む研究は 2021 年 8 月時点で 295 本あり、それらの論文の 85%が 2011 年度以降、38%が 2019 年度以降に発表されている。本研究では、これらの 295 の論文に関して、定性的なアプローチを併用し、4 つの研究パターンの分類をさらに試みている。4 つの研究パターンは、分析目的が知の構造研究であるか否か、分析対象文献が学術論文のみに限定されているか否かの 2 軸によって分類される(図 1)。

図 1 においてパターン A として分類される研究の特徴は、分析対象文献を学術論文に限定し、特定の研究分野の知の構造を探究することを研究目的とする点に見いだされる。パターン A の研究は現在、計量書誌学的アプローチを用いたマネジメント研究の主流となっており、研究数も年々増加している。パターン A の研究は、マネジメント分野の研究者が研究トレンドの現状を把握し、新たな研究テーマを探る上で非常に重要な研究である。キャリアを始めたばかりの研究

者がその分野で影響力のある研究を知るリーディングリストとしての意義もあるだろう。パターン A の今後の研究としては、ある研究分野全般の知の構造を探索的に論じるだけでなく、当該分野内の論争などのより明確で細かい問いに焦点を当てていくような研究が期待される。学術論文のデータベースの精度が高まりキーワードを用いた文献特定方法が用いやすくなっている近年、この種の研究の実施環境は整いつつあると言える。

図 1 においてパターン B として分類された研究は、パターン A の研究と同じく特定分野の知の構造の探究を分析目的としつつも、学術論文以外の文献も分析対象とする研究である。パターン B の研究に分類される論文は現時点ではそれほど多くないものの、先駆的な議論を行っている研究が複数含まれている。特に、求人広告のような実際のビジネスの現場を使用されている文書データを用いて、アカデミアの世界の議論と実務で生じている現象の関係を明らかにする研究は今後の発展の余地が大きいと考えられる。このマネジメント領域ではしばしば、理論と実務の乖離という問題が指摘されている。われわれが普段感覚的に論じていることを、計量書誌学的アプローチを用いてより精緻に議論できる可能性が、パターン B に分類される一部の先行研究からは示唆されている。

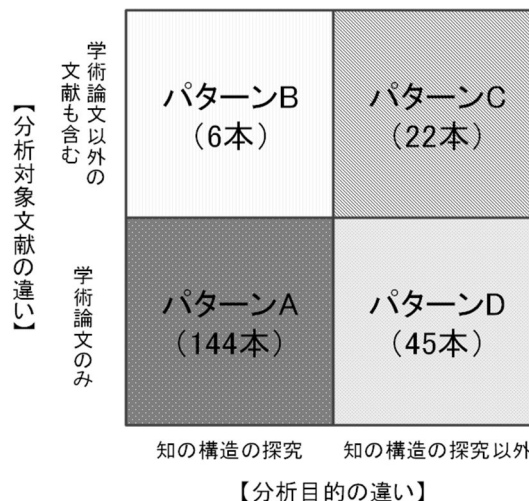
図 1 のパターン C の研究は、分析対象文献に学術論文以外の文献も含みつつ、知の構造の探究以外の分析目的を有する研究群である。特許などの文献に依拠しつつ、特定の研究開発分野の知の構造の特定も分析目的としないパターン C の研究は、本稿で分析対象とした研究群の中で最も実務的な志向性の高い研究である。パターン C の研究は今後も実務家へのインプリケーションを重視しつつ、計量書誌学的アプローチを実務家が活用するための方法を示していくことが一つの研究の方向性となるだろう。パターン B で示されている求人広告や、パターン C の一部の研究が活用していたユーザーコミュニティのテキストデータなどは、実務家が経営戦略を立てる上でも有用なデータとなりうるものである。そういったデータの分析法を探究していくことも社会的貢献の観点から重要だと思われる。

図 1 のパターン D の研究は、学術論文を分析対象としつつ、知の構造以外の問いを探究する研究群である。ここには、研究者のパフォーマンスに影響を与える要因を探究する研究などが含まれている。パターン D の研究は、計量書誌学的な情報から研究者の成果を多面的に分析し、研究機関や国・自治体などの研究促進策に有益な示唆を与えていくことが期待される。財源等が限られる中で有効な科学技術振興政策を展開することは益々社会的に重要になってきている。この種の政策が科学的な根拠に基づいて決定されるよう、ある政策が意図せざる悪い結果をもたらさないよう、イノベーションマネジメントの一つの下位分野としてパターン D の研究はこれからも必要だろう。

第 2 の研究成果は、高橋大樹(2021)として公表した上記レビュー論文の中で将来の発展可能性が示唆された「分析対象文献に学術論文以外の文献も含みつつ、知の構造の探究以外の分析目的を有する研究」パターン(パターン C)に関する探索的な実証研究である(高橋大樹(2022)「SDGs と経営学」武蔵野大学教養教育部会編著『SDGs の基礎～みずから学ぶ世界の課題』第 6 章)。本稿では、日本経済新聞社が提供する有料データベース「日経テレコン」内に収められている企業のプレスリリースのデータを用いて、「SDGs」というキーワードが文章中に含まれている 1,475 件の分析を行った。

分析の結果、この 7 年間に発表された SDGs 関連のプレスリリースには「社会問題」や「環境問題」といったテーマに関連したものが多く、「新商品・サービス」についてのプレスリリースは数としては比較的多いものの同じテーマの総数に占める割合は少ない、つまり日本でプレスリリースの対象となるような重要な新商品・サービスのうち SDGs に関わるものはまだわずかであること、SDGs への社会的な関心が次第に高まるにつれてわれわれ一般の顧客にも SDGs 関連商品のニーズが生まれつつあり、行政機関とのプロジェクトから通常の商品開発へと企業の関心が変化している可能性があることなどが明らかとなった。

図 1. 高橋(2021)における計量書誌学的アプローチを用いたマネジメント研究の 4 分類



5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 高橋大樹	4. 巻 4
2. 論文標題 計量書誌学的アプローチを用いたマネジメント研究の現状	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 武蔵野大学経営研究所紀要	6. 最初と最後の頁 53-113
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

1. 著者名 高橋 大樹（分担執筆）	4. 発行年 2023年
2. 出版社 武蔵野大学出版会	5. 総ページ数 232
3. 書名 SDGsの基礎～みずから学ぶ世界の課題（第 部第6章「SDGsと経営学」担当）	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------